

専門科目

【問題】

【1】 次の問題に答えなさい。（各 600～800 字）

① 心理療法における「枠」について、具体的な内容を挙げた上で、「枠」が必要とされる理由について述べなさい。

【出題意図】

心理療法における重要な概念に関する意義を理解し、説明することができるかを問うている。

【解答例】

心理療法における枠の具体的な内容として、心理療法を実施する場所や、クライアントが支払う料金、心理療法を実施する頻度といった外的な構造と、セラピストのクライアントに対する態度や、両者の間で結ばれる治療契約といった内的な枠組みが挙げられる。セラピストがこれらの枠を意識しながらクライアントにかかわっていくことで、心理療法を安全に進めやすくなると考えられる。

例えば、外的な構造が決まっていることで、クライアントが自身の思いを打ち明けやすくなることが考えられる。1回のセッションの時間は、50分とするのが一案であるが、セッションの終了時刻が決まっていることで、クライアントはどのような話題をどの程度話していくか、自身の中で見通しを持ちやすくなる。また、料金が決まっていることで、話す自由も話さない自由も保証されるため、話したくない内容を話すように強制されるという体験が減ると考えられる。

ただし、心理療法における枠は、常に守るべきルールというものではなく、ときには破られることもある。その場合に、なぜ枠が破られたのかをセラピストが検討することによって、クライアントの内面の理解につながる可能性がある。一例として、セッションの開始時刻を過ぎてもクライアントが来談しない場合、心理療法やセラピストに対して、何か面と向かっては話せない不満を抱えているという仮説を立てられる可能性がある。枠を設定し、それがどのように機能するかを丁寧に確認し、ときにはセラピストからクライアントに対して話題にすることで、両者の関係性について扱うこととなり、ひいてはクライアントの自己理解につながっていくという意義があるだろう。

② 義務教育の学校現場における児童・生徒の諸問題と心理職の役割について述べなさい。

【解答例】

スクールカウンセラーは、さまざまな諸問題について、児童生徒の理解と支援、教職員への助言、保護者支援、関係機関との連携という心理的支援の中核的役割を果たす必要がある。

第一に、いじめ対応が必要とされる。面接によって、被害児童生徒の心理的影響を把握し、安全感の回復と心理的ケアを行う。加害側については、ストレス、家庭環境、対人関係の未熟さなどの背景要因を理解し、行動改善に向けた支援を行うとともに、教員へのコンサルテーションによる早期発見や学級づくりの改善に協力する。

第二に、不登校対応である。不登校の背景要因としての不安、対人関係や学習困難などについて心

理的アセスメントをし、継続的カウンセリングを通して安心できる関係を形成する。また、保護者への助言および教員との連携によって段階的な登校支援を検討する。

第三に、暴力行為や反抗などの問題行動である。家庭環境要因を理解したうえで、認知・感情・行動調整などの性格特性についてのアセスメントを行い、向社会性のある行動獲得に向けた心理教育を行う。また、教員と適切な指導方法を共有し、必要に応じて児童相談所や警察など外部機関との連携を図る。

第四に、発達特性や学習上の困難への対応である。心理的特性を理解し、より良い適応を目標とした心理的支援を行う。保護者には児童生徒の特性の理解促進、環境調整と支援方法の助言を行う。教員に対しても校内の特別支援体制を整えるよう助言する。

学校には上記の他、虐待等の家庭環境に起因する問題や、不安や抑うつなどの心理的不安定等さまざまな諸問題がある。SCはいずれについても、児童生徒への直接支援によって心理状態を把握し、安心して相談できる場を提供して心理的ケアを行う。さらに、教職員へのコンサルテーション、保護者支援、関係機関との連携を通じて学校全体の支援体制を強化するとともに予防的心理教育を含めた包括的な関与が求められている。

### 【問題】

【2】 次の事例について、①～③の問いに答えなさい。

(① ②は各 250～300 字)

小学4年生の女兒Aが、母親とともに心理相談機関を訪れた。Aは、2週間前に、下校の途中で同級生が交通事故に遭うのを間近で目撃した。それ以来、母の付き添いがないと登校できなくなり、また、夜驚が続いている。

心理相談機関では、相談員が母親から話を聴くと同時に、別の相談員がAとプレイルームで過ごすこととした。Aは家からお気に入りのぬいぐるみを持参していた。相談員と共に不安そうな顔でプレイルームに入室すると、ぬいぐるみを抱いたまま部屋の入り口の近くに座り込んでしまった。

- 【出題の意図】
- ①外傷体験後の反応について理解できているか
  - ②プレイセラピーにおける基本的な態度について理解できているか
  - ③児童臨床の面接構造に関する基礎知識を有しているか

① 交通事故を目撃した後のAの状態について、どのように理解しますか。

### 【解答例】

同級生の交通事故を間近で目撃したという外傷体験の後に、登校困難や夜驚が出現していることから、外傷体験後の急性のストレス反応として理解できる。事故からまだ2週間であり、症状の持続期間が1か月未満であることから、急性ストレス障害(ASD)の可能性が考えられる。このような反応は強いストレスにさらされた際に生じる自然な反応であり、多くは一過性に軽快する。症状が1か月以上持続する場合にはPTSDの可能性も検討される。対応としては、Aが安心や安全を感じられる環境を整え、不安や恐怖を共感的に受け止めながら経過を見守ることが重要である。

② プレイルーム入室後のAに対して、どのように対応しますか。具体的にどのような声かけを行うかも含めて説明してください。

**【解答例】**

お気に入りのぬいぐるみを持参していることや、部屋の入口付近で座り込んでいる様子から、母親と離れて初めての場所に入ることへの不安や緊張が強い状態であると考えられる。ぬいぐるみは不安を和らげ安心感を保つための対象として機能している可能性があるため、持参を制限せずそのまま受け入れる。まずは安心して過ごせる場であると感じてもらうことを重視し、無理に遊びに誘ったり活動を促したりせず、入口付近で過ごすことも受け入れる。「ここではAちゃんのしたいことをして過ごしていいよ」「したくないことはしなくて大丈夫だよ」などと声をかけ、不安な気持ちに寄り添いながら様子を見守る。

③ 下線部のような心理面接の形態を一般的になんと呼びますか。

**【解答例】**

親子並行面接（母子並行面接）

**【問題】**

【3】 以下の事項について述べなさい。（各 150～200 字）

**【出題の意図】**

心理統計、精神医学、心理検査、心理療法、発達、緊急支援等における基礎的な概念に関する理解を問うている。

① 有意水準

**【解答例】**

有意水準とは、統計的仮説検定において、帰無仮説が真であると仮定した場合に、手元のデータが得られることがどの程度生じるのかを説明するための確率である。研究者が調査を実施する前に設定するものであり、5%や1%といった値が一般的である。実際に得られたデータから計算される検定統計量が、有意水準未満の確率でしか生じない領域（棄却域）に入っていれば、帰無仮説を棄却し、対立仮説を採択する。

② 回想法

**【解答例】**

記憶の想起、回想により人生の連続性の自覚を促し、自尊心やコミュニケーション能力を回復させる方法。認知症患者に対する非薬物療法の一つであるが、広く高齢者にも有用である。1963年にアメリカの精神科医 Butler が、「過去の繰り返言」「現実逃避」と否定的に捉えられてきた高齢者の回想を意味あるものと捉え直したことに始まる。実施は、写真や思い出の物品を高齢者に提示し、回想を促して傾聴する。

③ MMP I - 3

【解答例】

質問紙法人格検査のミネソタ多面人格目録最新版で DSM-5 のパーソナリティ障害に対応している。宗教やジェンダーに関連する項目が削除され、性別のない単一基準で評価される。特定領域（身体的・認知機能、内在化、外在化、対人関係）26、パーソナリティ精神病理5、再構成臨床尺度（デモラリゼーション、身体的愁訴、被害念慮など）8、高次尺度（情緒、思考、行動）3尺度、妥当性尺度10の合計52尺度335項目で構成されている。

④ 被災者支援におけるデブリーフィング

【解答例】

災害や事故などの外傷体験の後に行われる心理的支援の方法の一つである。被災後、できるだけ早い時期に体験を語り、感情を表出して体験を整理することで、PTSDなどの心理的影響の予防を目的として行われる。グループで実施されることも多い。近年では無理に体験を語らせることは有効でないばかりか回復を遅らせる可能性が指摘されているため、実施には慎重な判断が必要とされている。

⑤ 三項関係

【解答例】

ヒトの発達過程において生後約9～10か月頃に現れる特徴で、「子ども—物—他者」という3つの関係のことを言う。これが成立することは、物を通して他者と意図や感情を共有することが可能となってくることである。つまり、それまでの自己と他者、または自己と物という2者間の関係から進化し、物のやり取りや指さし、共同注意、ごっこ遊びなどの「共感」や言葉の獲得に発展していく等、社会性の基礎となる重要な指標である。

英 語

【出題意図】

英語を正確に読解できるか。

【試験問題】

以下は、パーソナリティ障害の特徴（症状）に関する ICD-11 の記載からの抜粋である。これを読み、以下の問いに答えよ。

Essential (Required) Features:

- ① An enduring disturbance characterized by problems in functioning of aspects of the self (e.g., identity, self-worth, accuracy of self-view, self-direction), and/or interpersonal dysfunction (e.g., ability to develop and maintain close and mutually satisfying relationships, ability to understand others' perspectives and to manage conflict in relationships).
- The disturbance has persisted over an extended period of time (e.g., lasting 2 years or more).
- ② The disturbance is manifest in patterns of cognition, emotional experience, emotional expression, and behaviour that are maladaptive (e.g., inflexible or poorly regulated).
- The disturbance is manifest across a range of personal and social situations (i.e., is not limited to specific relationships or social roles), though it may be consistently evoked by particular types of circumstances and not others.
- The symptoms are not due to the direct effects of a medication or substance, including withdrawal effects, and are not better accounted for by another mental disorder, a Disease of the Nervous System, or another medical condition.
- The disturbance is associated with substantial distress or significant impairment in personal, family, social, educational, occupational or other important areas of functioning.
- Personality Disorder should not be diagnosed if the patterns of behaviour characterizing the personality disturbance are developmentally appropriate (e.g., problems related to establishing an independent self-identity during adolescence) or can be explained primarily by social or cultural factors, including socio-political conflict.

Additional Clinical Features:

- ③ Personality Disorder tends to arise when individuals' life experiences provide inadequate support for typical personality development, given the person's temperament (the aspect of personality that is considered to be innate, reflecting basic genetic and neurobiological processes). Thus, early life adversity is a risk factor for later development of Personality Disorder, as it is for many other mental disorders. However, it is not determinative. That is, some individuals' temperament allows typical personality development despite an extremely adverse early environment. Nonetheless, in the context of a history of early adversity, ongoing behavioural, emotional, or interpersonal difficulties suggest that a Personality Disorder diagnosis should be considered.
- ④ Personality Disorder often complicates and lengthens treatment of other clinical syndromes. Thus, poor or incomplete response to standard treatments of, for example, Depressive Disorders and Anxiety or Fear-Related Disorders, may suggest the presence of Personality Disorder. Relatedly, persistent functional

impairment after resolution of the clinical syndrome(s) being treated may suggest the presence of Personality Disorder,

・⑤There is often considerable variability in the degree to which individuals and those around them agree that the individual's behaviours reflect a particular trait. If there is a marked discrepancy between an individual's self-description and the kinds of problematic behaviours exhibited, it often is helpful to interview someone who knows the person well. Marked differences between the individual's self-description and the informant's description may be suggestive of Personality Disorder. (出典：ICD-11より抜粋)

問 1. 下線部①を訳せ。

【解答例】

長期にわたる障害で、自己の諸側面の機能（例：アイデンティティ、自尊心、自己観の正確さ、自己方向性）の問題、および/または対人関係の機能不全（例：緊密かつ相互に満足のいく関係をはぐくみ維持する能力、他人の視点を理解し人間関係における対立を処理する能力）を特徴とする。(30点)

問 2. 下線部②を訳せ。

【解答例】

この障害は、認知、感情経験、感情表現、および行動の非適応的（例：柔軟性がないか調節が乏しい）なパターンとして現れる。(20点)

問 3. 下線部③を読み、「パーソナリティ障害」、「個人の気質」、「人生の初期の逆境」の関係を、簡単に説明せよ。

【解答例】

「人生の初期の逆境」があると、後に「パーソナリティ障害」を発症しやすいが、決定的な物ではない。「個人の気質」によっては、「人生の初期の逆境」があっても、定型的なパーソナリティ発達をすることがあるからである。(20点)

問 4. 下線部④を訳せ。

【解答例】

パーソナリティ障害は、しばしば他の臨床症候群の治療を複雑にし、長期化させることがある。(15点)

問 5. 下線部⑤、個人の自己説明と行われた問題行動の種類との間に顕著な不一致がある場合、どのようにすればよいと言っているか簡単に説明せよ。

【解答例】

その個人をよく知っている人にインタビューすることが役立つ。(15点)

## 小論文

### 【問題】

QOL (Quality of life) を向上させるうえで、心理臨床をどのように活用できるか、具体例をいくつかあげて考えるところを述べなさい。

(文字数 1200～1500 字)

### 【出題意図】

現在どのような人々に、どのような目的で実際に心理臨床が行われているか、QOL と関連させての理解を問うものである。

### 【解答例】

QOL (Quality of Life) は、「生活の質」と言われるもので、身体的・心理的・社会的側面を含む。本人がどれだけ満足感や幸福感をもって生活できているかを重視する概念で、心理臨床は、以下の点で QOL を高めることに活用・寄与できる。

#### ① 心理的な問題の改善や苦痛の軽減

人は、複数の社会的な集団（家族、学校、職場、特定のコミュニティ等）に属す。その人間関係でストレスを感じたり、自己の欲求が満たされなかったり、不安・抑うつを抱えることがある。また、過去の体験によるトラウマを抱える場合もある。そのような場合、心理臨床において、受容されたり、否定的な思考の偏りに気づき、現実的で柔軟な捉え方へ調整する支援がなされ、自己効力感や生活への意欲が回復し、QOL 向上につながる。

#### ② 家族の問題を心理的に支援する

本人の抱える問題だけでなく、家族（配偶者、子どもや親等）に関する相談を受け、心理的支援をする。たとえば、高齢者や慢性疾患を抱える人々は、身体機能の低下や生活の制限から不安・抑うつを抱えやすい。家族介護の場面では、介護者と被介護者の双方がストレスを抱えやすい。心理臨床では、双方の感情の背景を整理し、互いのニーズを理解し合うための対話を促す。

また、子どもが非社会的行動（不登校、自傷行為等）、反社会的行動（非行、家庭内暴力等）をするような場合や、子どもに障害があってその対応に苦慮するような場合、育児不安や虐待のある場合等、親の不安を理解するとともにどのような対応をするかに心理臨床は貢献する。夫婦カウンセリングにおいても、両者の気持ちを言語化し、すれ違いを解消することで関係性の改善なども可能である。家庭内の良好な人間関係は、生活の満足度を高める重要な要素であり、心理臨床はその基盤を整える。

#### ③ 人は生涯発達するという立場から、その発達を支える

障害や発達の特性がある児・者への心理臨床として、その発達段階や特性に応じて支援目標を設定し、手立てを考えて実行に移し、彼らの QOL を高めていくことが可能である。特に障害がなくても、子どもの成長過程に発達課題がある。大人になっても発達課題や人生の危機があるため、それを見極めて接することが大切である。健全な成長・発達を支援する心理臨床も重要である。一方、認知症患者だけでなく、全ての高齢者において、たとえば回想法は、脳の活性化やうつ改善、精神的安定をもたらす、アイデンティティを再確認する効果が見込まれる。「安心して語れる関係」を専門的に提供することで、生活の満足度を支えることも可能である。

#### ④心の問題の予防的役割

心理臨床が心の問題に予防的役割を果たす。問題が深刻化・慢性化する前に、あるいは問題が発生する前に働きかけることは、現在非常に重要視されている。主に「メンタルヘルス不調の未然防止（一次）」「早期発見・対処（二次）」「再発防止・復帰支援（三次）」の3段階がある。①②③で述べた問題の対処だけでなく、予防としても、ストレス管理の研修や心理教育、いじめ・不登校の未然防止にむけた心理教育、健全な親子関係を築くための子育て支援なども心理臨床の知見を活用した取り組みであり、QOLにつながる。

以上のような心理臨床の役割は、単に問題を解決することにとどまらず、本人が自分らしく生きるための力をつけていくプロセスを支えることであり、QOLの向上につながると考えられる。

専門科目

【問題】

【1】 次の問題に答えなさい。（各 600～800 字）

① 心理学的援助におけるアセスメントにおいて、あなたが重要であると考えてることを少なくとも2つ、具体例を挙げながら述べなさい。

【出題意図】

心理学的援助や心理的アセスメントにおける基本的な認識を説明することができるかを問うている。

【解答例】

心理学的援助におけるアセスメントを行う際に重要な点として、①多角的な視点からとらえることと、②アセスメントは継続的に行うことの2点を挙げる。

①について、被援助者の現状について適切に把握するためには、心理面に関する情報だけでなく、身体疾患や服薬状況といった生物学的な視点や、家族関係や友人関係、経済的状况など、社会的な視点からも情報を得ていくことが望ましい。また、どのように情報を得るかについても、被援助者本人の語りに加えて、行動観察など、非言語的な情報に着目したり、その家族や他の支援者など、本人以外の関係者から聴取したりするなど、いくつかの方法を併用することで、偏った視点からアセスメントすることを防ぐことが可能となる。さらに、アセスメントを目的として心理検査を実施する場合には、どのような情報を得ようとするかに応じて、知能・発達検査やパーソナリティ検査など、複数の心理検査によるテスト・バッテリーを組み合わせることも有効である。

②について、被援助者の状態や、被援助者をとりまく環境は、支援を行う中で変化するものである。そのため、アセスメントは一度行えば完結するものではなく、支援の中で継続して行うことで、そのつど援助方針に反映させていくことが望ましい。具体例として、知的障害のある方への療育手帳の交付を目的とした判定業務では、加齢とともに知的水準や生活状況が変化するものであることをふまえ、利用者本人に対する心理検査や保護者からの聴取を繰り返し実施することが一般的である。また、個人心理療法を行う中で、精神症状に関する質問紙や（例：抑うつを測定するためのBDI）や、描画法（例：バウムテスト）を複数回実施することで、クライアントの精神状態の変化について検討しやすくなると考えられる。

② 心理職が行うカウンセリング、コンサルテーション、スーパーヴィジョンの相違について述べなさい。

【解答例】

順次それぞれについて述べていく。

カウンセリングは、悩みや問題を抱えて訪れるクライアント自身の、心理的問題の理解・軽減、自己理解の促進、適応の改善を目標として、クライアントとの面接によって行う相談業務である。言語面接、遊戯療法、芸術療法などのクライアントの年齢や趣向等適合度の高い方法を用いて、傾聴、受容、共感によりクライアントと信頼関係を結び、クライアントの主訴、感情・認知・行動のパターン、性格、対人関係の持ち方等のアセスメントを行いながら、ストレスや症状への対処、自己成長や問題解決の支援を行っていくことである。

コンサルテーションは、教師、保護者、支援スタッフなどのクライアントの支援者・関係者に対して、クライアントの心理的問題の改善のために、問題の理解や見立ての助言、対応方法の提案、支援体制づくりの助言等を行うことである。

スーパーヴィジョンは、心理職・研修生などの専門家の被指導者に対して、専門家としてより多くの知見と技術を有する心理職が指導者として、被指導者の専門家としての技能・倫理・臨床判断の向上を目的として行う助言や訓練である。通常指導者はスーパーバイザー、被指導者はスーパーバイジーと呼ばれる。具体的には、ケース検討、面接技法の指導、倫理・専門性の確認、専門職としての成長支援が行われる。

まとめると、カウンセリングはクライアント本人への直接支援、コンサルテーションは、クライアントの支援者への間接支援であり、いずれも悩みや問題を抱えるクライアントの支援を目的に行われるものであり、スーパーヴィジョンは心理専門家の教育・指導といえる。

**【2】 次の事例について、①②の問いに答えなさい。(各 250～300 字)**

24歳の女性A。大学卒業後、ある企業に就職したが、残業が多く、最近は体調を崩して休むことが増えてきているという。同僚に勧められて、B大学の心理相談室を訪れた。Aによると、同期の社員と比べてAの仕事量が多くなっていて、時間内に終わらないという。ただ、Aの仕事が遅いわけではなく、上司からの評価も悪くないようである。

Aにエゴグラムを実施したところ、NPとACが高くてCPとFCが低いという結果だった。その後、Aは継続的にカウンセリングに通うことになった。2回目の面接で、Aは仕事のつらさやこれまでの対人関係のことを語った。セッションの終わりに、Aは担当のカウンセラーに次のように言った。「私は指示を出してもらえればそれに対して一生懸命取り組みます。今後どうすればいいか教えてください。ぜひ、指示を出してくださいませんか？」

**【出題意図】**

①エゴグラムに関する基本的な読み取りができていないか。また、心理検査の結果を事例理解に活かすことができていないか。

②心理検査の結果をふまえて面接関係を理解し、適切な対応ができていないか。

① エゴグラムの結果から、Aの性格傾向をどのように理解しますか。

**【解答例】**

NPとACが高いことから、他者に配慮し、相手の期待に応えようとする傾向が強いと考えられる。一方、CPとFCが低いことから、自分の意見を主張したり感情を率直に表現したりすることはあまり得意ではないと考えられる。全体として、他者への配慮が強く、自分の欲求や意見を抑えて周囲に合わせやすい対人傾向がうかがえる。そのため、周囲からは従順で頼みやすい人物と受け取られ、上司から頼まれる仕事を断りにくい状況が生じている可能性がある。A自身もつらさを表明できずに仕事を引き受け続けた結果、仕事量が多くなり負担が高まっていることが考えられる。

② Aの問いに対して、担当カウンセラーはどのように答えるとよいでしょうか。具体的な発言例も交えて、答えてください。

**【解答例】**

Aは他者の指示に従うことで安心しようとする対人傾向がうかがえる。そのため、カウンセラーに具体的な指示を求めていると考えられる。しかしカウンセラーが指示を与え、それにAが従う形にな

ると、職場で生じている関係と同様の構図が再現される可能性がある。そのため一方的に指示を出すのではなく、A自身が自分の考えや気持ちに気づき主体的に選択できるよう支援することが望ましい。必要なら「私の指示にAさんが従うのでは仕事と同じになってしまう」と伝え、「Aさんはどうしたらよいと思いますか」「一緒に考えていきましょう」などと、Aが自分の気持ちや考えを整理していきけるように関わる。

【3】 以下の事項について述べなさい。(各 150～200 字)

【出題の意図】

心理統計、精神医学、心理検査、心理療法、発達等における基礎的な概念に関する理解を問うている。

① 対応のないt検定と、対応のあるt検定

【解答例】

t検定とは、統計的仮説検定の一種で、2群の平均値を比較するために用いられる分析方法である。対応のないt検定は、性差の比較など、比較する両群に含まれる調査協力者が独立である場合に用いられる。一方で、対応のあるt検定は、心理療法の介入前後の効果検証など、比較する両群に含まれる調査協力者が同一である場合に用いられる。

② 無条件の肯定的関心

【解答例】

ロジャーズが提唱したカウンセラーの基本的態度の一つである。来談者の体験や感情を、非難や評価、条件づけをせず、その人のものとして温かく受け止める態度を指す。来談者を価値ある存在として無条件に尊重することで安心感が生まれ、来談者自身が自分の内的体験に気づき受け入れていくことが促され、自己理解や自己成長が進むとされる。

③ Y-G 性格検査

【解答例】

矢田部ギルフォード性格検査である。120項目の質問紙法である。性格特性12尺度がプロフィールとして可視化され、行動特性、情緒の安定性、人間関係、仕事に対しての取組姿勢、リーダー資質、知覚の特性がわかる。また、A型(平均型)、B型(不安定・積極型)、C型(安定・消極型)、D型(安定・積極型)、E型(不安定・消極型)の5つの典型的な類型に分類される。医療・教育・企業等で幅広く活用されている。

④ マズローの欲求5段階説

【解答例】

アメリカの心理学者アブラハム・マズローが提唱した。人間の欲求は5つのピラミッド状の階層をなし、低次の欲求が満たされると高次の欲求へ移行するという理論。低次から順に「生理的欲求(生命維持の食事・睡眠等)」、「安全欲求(安全な生活、良好な健康等)」、「社会的欲求(社会的役割、所属感、他者との愛等)」、「承認欲求(他者から認められる、自己尊重感など)」、「自己実現欲求(自分を高めたい等)」である。

⑤ うつの3大妄想

【解答例】

貧困妄想、罪業妄想、心気妄想の3つである。貧困妄想は、実際に所有している財産に不相应に、「その日の食にも窮する」「入院費も払えない」など、自己を極度に貧困に考えるもの。罪業妄想は、実際には何も罪を犯していないにもかかわらず、あるいは通常問題にならない些細なことを気にして、自分が重大な犯罪をした罪人であるかのように考えるもの。心気妄想は、自己の身体に関し、不治の病にかかっていると考えるもの。

英 語

【出題意図】

英語を正確に読解できるか。

【試験問題】

以下は、ソーシャルメディアの使用と友人関係に関するオランダの研究論文の抜粋です。これを読み、問に答えなさい。

Adolescents use different social media in functionally complementary ways, and each of these platforms <sup>注3)</sup> may therefore be related to friendship closeness in a unique way .

① Instagram is mainly used for positive self-presentation to a large audience, which is a type of social media use that may be unrelated to friendship closeness . In contrast, ② WhatsApp and Snapchat are mainly used to privately communicate with close others such as friends . Due to the private nature of WhatsApp and Snapchat, adolescents also share more ludic <sup>注4)</sup> content and intimate information with their friends via these platforms than via Instagram . As humor and intimate self-disclosure play an important role in friendship maintenance, we hypothesized that WhatsApp and Snapchat use would be more strongly positively associated with friendship closeness than Instagram use, both at the between-person and within-person level .

(中略)

③ The findings of this study confirmed the idea that adolescents use different social media platforms in complementary ways, although the pattern of platform differences was the opposite of what we had expected. Whereas we expected that WhatsApp and Snapchat use would be more strongly positively related to friendship closeness than Instagram use, the most robust and strongest effects were found for Instagram. This may perhaps be because adolescents' use of social media rapidly changes over time. Although WhatsApp was the most popular platform among adolescents in this study, only in 12% of the occasions it was used to communicate with close friends. A recent Dutch survey study revealed that WhatsApp is used not only to send direct messages to (close) friends, but also to parents and acquaintances. Although Snapchat was used more frequently with close friends than WhatsApp, the effects for Snapchat may have been nonsignificant because adolescents may not remember the content of their snap messages and consider them as relatively meaningless, as has been shown in a study among young adults.

Contrary to our expectations, Instagram seems to play the largest role in communicating with close friends and, thus, friendship closeness. Today's adolescents often have multiple Instagram accounts: Besides a real Instagram account, many adolescents have a fake Instagram account (FINSTA) that is used to connect with close friends. Research among college students showed that a FINSTA is used to provide friends daily updates and to make them laugh. As humor and intimate self-disclosure are strongly related to friendship closeness, the use of FINSTAs may explain why we found the strongest effects for Instagram.

(出典 : Pouwels, J. L., Valkenburg, P. M., Beyens, I., van Driel, I. I., & Keijsers, L. (2021). Social media use and friendship closeness in adolescents' daily lives: An experience sampling study. *Developmental Psychology*, 57(2), 309–323 より改変)

注1) WhatsApp : コミュニケーションアプリとして、世界で最も人気がある。日本の Line に相当。

- 注2) Snapchat : 登録した個人やグループに向けて画像などを投稿する SNS アプリ。閲覧時間を投稿者が 1~10 秒、または無制限に設定できる。無制限に設定した場合も、スレッドを閉じると投稿が削除され、それ以降は見られなくなる。
- 注3) platforms : プラットフォーム。SNS のオンラインのサービスやサイトのこと。この論文では、WhatsApp、Snapchat、Instagram の三つのプラットフォームを取り上げている。
- 注4) ludic : 遊び心のある

問1. 下線部①を訳せ。

【解答例】

Instagram は主に、多数の視聴者に対する肯定的な自己呈示に使用され、これは友人関係の親密さとは無関係である可能性のあるソーシャルメディアの使用法である。

問2. 下線部②を訳せ。

【解答例】

WhatsApp と Snapchat は主に友人などの親しい他者と個人的にコミュニケーションをとるために使用される。

問3. 筆者らは、最初どのような仮説たてたか説明せよ。

【解答例】

WhatsApp と Snapchat の使用は Instagram の使用よりも、個人間レベルと個人内レベルの両方で、友人関係の親密さとより強い正の関連があるだろうという仮説。

問4. 下線部③を訳せ。

【解答例】

本研究の結果は、青少年がさまざまなソーシャルメディアプラットフォームを補完的に使用するという考えを確証したが、プラットフォームごとの傾向は我々の予想とは逆であった。我々は、WhatsApp と Snapchat の使用は Instagram の使用よりも友人関係の親密さと強く正の相関関係があると予想していたが、最も堅固で強い影響が見られたのは Instagram であった。

問5. FINSTA とはどのようなもので、どのように使用されているかを説明せよ。

【解答例】

FINSTA とは、本物の Instagram アカウント以外のフェイクの Instagram アカウント であり、大学生を対象にした調査では、FINSTA は友人に日々の近況を伝えたり、笑わせたりするために使用されている。

配点 問1 : 15 点 問2 : 15 点 問3 : 20 点 問4 : 25 点 問5 : 25 点